



色とりどりの児童の作品が展示されたアートイベント。会場では子どもたちがオブジェ作りにも励んだ。長岡市の秋山孝ポスター美術館長岡

長岡市の宮内商店街の一角にある「秋山孝ポスター美術館長岡」で今月、地元上組小学校の6年生76人のカラフルな版画が展示された。一日限りのアートイベント。児童が地域の人の書いてもらった感謝のメッセージなどを飾り付け、高さ3メートルのツリーのオブジェを完成させると「面白い」と声が上ががり、笑顔が広がった。

「6年間お世話になった地域の人の感謝と恩返し」と田中杏実さん(12)はうれしそう。上組小は「日本童画の父」として知られる川上四郎ら芸術分野で活躍する卒業生が多い。学校は豊かな感性や想像力を育てるため、創作活動や美術鑑賞など造形教育に力を入れてきた。

連絡帳は「あのねノート」と呼ぶスケッチブックだ。子どもたちが

ながおか し かみくみしょう  
長岡市上組小

どう かつ けい ぞう  
動 活 形 造

感じたことを文章ではなく、絵やイラストで描いている。年に7回、朝学習では絵や水彩の技法など

ひょうげんとお  
ひょうげんとお

表現通し地域と交流

6年生になると毎春秋に創作に励む時間が多い。



県立近代美術館での学芸員体験を前に、同館学芸員から仕事を教えてもらう児童＝長岡市の上組小学校

表現通し地域と交流

感じて、地域の人たちなどから作品を借り、校内美術館を開設する。冬は市内にある県立近代美術館で

6年間の総仕上げとして、2年前からアートイベントに取り組んでいる。ことは子どもたちの希望で地元にある秋山孝ポスター美術館長

岡が会場に。児童は商店街にいた人たちに来場を呼び掛けたり、元気づけ展示作品紹介をしたり、イベントは大盛り上がり。小川伶士君(12)は「地域の人に喜んでもらえてうれしい」と感激、永井沙英さん(12)も「地域の人に思いを伝えられた」と喜ぶ。造形活動が地域と学校をつないでいる。

はげ さいくひんてんじ  
作品展示が励みに



おかもと りょうまくん  
岡元 龍馬君(12)

上組小は図工の授業以外にも朝学習の「造形タイム」を使い、普段から作品作りをする時間が多いです。小さい頃から絵を描いたり、物を作ったりするのが好きだったので、その時間がとても楽しい。創作に集中しすぎて、「もうこんな時間！」ということがよくあります。

校内には、自分たちの作品を展示する「造形通り」があります。秋の芸術祭(文化祭)以外にも自分の作品を見せたい機会が多いので、作品作りはいつも力が入ります。

1年生から「あのねノート」にスケッチやイラストを描いてきたので、絵は上手になりました。県立近代美術館で学芸員体験をして作品にはさまざまな見方があることを学びました。中学生になったら、もっと表現力を身に付け、作品作りに生かしていきたいです。

ピクアツプ  
「ポスター美術館」

国内外で活躍するグラフィックデザイナーで多摩美術大学教授の秋山孝さんは、上組小学校の卒業生。その秋山さんの作品を展示しているのが、同校に近い「秋山孝ポスター美術館長岡」(長岡市宮内2)

国内には、自分たちの作品を展示する「造形通り」があります。秋の芸術祭(文化祭)以外にも自分の作品を見せたい機会が多いので、作品作りはいつも力が入ります。

1年生から「あのねノート」にスケッチやイラストを描いてきたので、絵は上手になりました。県立近代美術館で学芸員体験をして作品にはさまざまな見方があることを学びました。中学生になったら、もっと表現力を身に付け、作品作りに生かしていきたいです。



所蔵品は秋山さんが制作したポスターなど約80点。年3、4回、所蔵品を中心に企画展を開いている。スタッフの森山奈帆さん(32)は「全国でも珍しいポスターに特化した美術館」とPR。現在は冬季閉館中だが、4月20日に再開する。問い合わせは同美術館、02568(3) 12300。